

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、目標の実現に向かって努力する生徒の育成 3 新しい時代を主体的に切り拓く、心豊かで、たくましい生徒の育成
(2) 現状と課題	学習習慣の欠如により、基礎学力が定着していない生徒や、基本的な生活習慣が身についておらず、目的意識や進路意識も低い生徒が見られる。そこで、将来の自分の夢を持って真剣に進路を考え、学校生活を有意義に過ごすために、学習習慣と基本的な生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、普通科においては特色ある教育活動の推進と食物調理科では資格取得を活かした進路活動の充実が課題である。
(3) 重点目標	1 魅力ある教育活動の推進 2 学習指導の充実 3 キャリア教育の充実 4 健康・安全教育の充実
(4) 結果の公表	本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のPTA総会で保護者に公表する。

学校整理番号	
学校名	青森県立百石高等学校
課程	全日制の課程
自己評価実施日	令和 7年 1月 29日(水)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 10日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
町教育長1名、社会福祉協議会会長1名、中学校関係者1名、町観光協会会長1名、町役場職員2名、企業関係者1名、本校後援会会長1名、PTA役員1名

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	魅力ある教育活動	① 魅力ある教育活動を展開するために、創意工夫して教育課程を編成する。 ② 分掌・学年・教科間の縦横断的な情報共有や連携ができてきているか。 ③ 学校運営協議会を開催し、社会に開かれた教育活動を実践できたか。	① 三菱みらい財団からの助成を受け、魅力ある教育課程について、県外研修に参加しながら来年度の準備を進めている。(普通教科全体のバランス・学校行事) ② 分掌・学年・教科間での連携については、運営会議をできるだけ定期的に開催し、情報共有を図った。 ③ ICT(Classi等)を活用して、学校からの連絡は円滑に進んだ。学校運営協議会の中で出た意見を教育課程に反映させるため、具体的な取り組みを進めていきたい。	B	令和6年度の魅力ある教育活動については、先生方の県外研修等に参加された成果を、次年度に生かされるよう期待したい。また、HPやSNSへの情報発信によるPRは、今後の教育活動につながることを期待したい。 大学・短大等への進学に結びつくよう啓発することが、魅力ある学校づくりへとつながる。また、地域のスポーツ協議会を活用して、生徒がスポーツに取り組める環境を整えてほしい。	・魅力ある教育課程編成のため、保護者への情報発信のみならず、外部を意識したHPやSNSへの情報発信を検討し、魅力ある教育課程をPRする。 ・学校運営協議会の体制づくりに引き続き努める。
2	学習指導	① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得をさせられたか。 ② 体験活動や問題解決型の学習を通して、主体的・対話的・協働的に学習する態度を育成できたか。 ③ 一人ひとりの能力や適性に応じた指導ができたか。 ④ 特別な支援や配慮を必要とする生徒については、柔軟に対応できたか。	① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を重視し、学習指導方法の工夫、研究に努める。 ② 学習環境を整え、体験活動や問題解決型の学習を通して、主体的・対話的・協働的に学習する態度を育成する。 ③ 一人ひとりの能力や適性を観察し、個に応じた指導と、学習習慣の育成に努め、生涯学習へつなげる教育を行う。 ④ 特別な支援や配慮を必要とする生徒については、一人ひとりの教育的なニーズを把握し、適切に指導する。校内の支援体制を充実させ、関係機関等との連携を図る。	A	評価と指導の一体化については、具体的な取り組みをしっかりと進めてほしい。	・基礎的な知識及び技能の定着を図る授業と、主体性を育む授業のバランスをとるための授業研修を来年度も計画する。 ・基礎的な学力の定着を図りつつ、学習意欲を失わせないための工夫や、家庭学習に取り組む態度の育成が課題である。 ・配慮を必要とする生徒への支援は、引き続き外部団体と連絡を取りながら丁寧に行う必要がある。
3	キャリア教育	① 系統的で継続的、組織的で柔軟な指導ができるよう、指導体制の整備や充実ができたか。 ② 全教員の共通理解のもと、個々の生徒の適性や能力に応じた指導であったか。 ③ 主体的な進路選択ができるような実践であったか。	① ② 系統的なキャリア教育ができるための研修に複数の教員が参加し、参加後の情報共有を図っている。3年間を見通したプログラムを若手教員で検討し、実践に向けて準備している。アルバイトの届け出制は、2年目を迎えたが、報告書の提出をさせることで、社会とのつながりや、働くことの意義を考えさせている。 ③ 探究week を2回設けて、学校の外に出る学習を計画的に行った。おいらせwalkやフィールドワークで保護者や教員以外の大人と触れ合う機会が生徒の成長を促している。	A	地域の大人との関わり方が、生徒の成長を促していくことを改めて、認識したい。	・総合的な探究の時間の系統化を進めることを通じて、キャリア教育の組織化を進めている。PDCAのサイクルを来年度も継続していきたい。 3年間を見据え、系統立てたキャリア教育を教職員の共通理解のもと、実施できるよう振り返りながら、より良いものになるよう修正を続けていきたい。
4	安全教育	① 保健・安全教育を通じて、健康で安全な生活を営む態度を育成できたか。	① 避難訓練や安全点検を定期的に実施する。生徒の事故非行の予防・防止や、いじめ等の早期発見・早期対応を図る。	B	安全教育の充実については、小学・中学・高校といった流れの中で、段階に応じて子供たちは成長していくものですが、特に「いじめ問題」は早期発見、早期対応が大事であり、いろいろな方法で事故の未然防止に努めていただきたいと考えております。そのためには、「気づき」が大事である。 避難訓練については生徒たち自らが考えどのように行	・何のための行事や、仕事かという、目的を共有化しながら、校務の合理化・効率化を図り、教員の安心安全もより一層進めていきたい。

(11) 総括	三菱みらい財団「心のエンジンを駆動させるプログラム」助成事業に採択され、生徒の主体性をはぐくむための研修に、複数の若手教員が参加し、徐々に探究イズムが浸透している。「ももいし心・・・物事を広くとらえ、目標を持ち、一歩前に、しなやかな心で」の共通認識を確認しながら引き続き取り組んでいきたい。入学してくる生徒の課題を見据えた支援や指導ができるための研修を実施しながら、生徒の成長を促していく。
---------	---